

## 想像力を働かせて漢文を読む —登場人物の立場で「四面楚歌」を語る—

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 史記 I
- 3 教材名 項羽「四面楚歌」
- 4 単元の内容

単元の目標  
と評価規準  
・評価方法

### ①単元の目標

- ア 教材に興味を持ち、学習に意欲的に取組もうとする。(関心・意欲・態度)  
 イ 漢文を読んで、場の情景や登場人物の心情を的確にとらえることができる。(読む力)  
 ウ 訓読の決まりや漢文特有の句形、語句の意味を理解することができる。(知識・理解)

### ②単元の目標設定の理由

- ・生徒たちの中には、漢文に対して苦手意識をもつ者が多く、授業も受け身になりがちである。特に、登場人物の多い文章になると「誰が誰に何をしたのか」といった状況を把握しきれなくなるようである。このような生徒たちに、物語の情景や登場人物の心情を具体的にイメージさせ、内容の把握をさせたいと考えた。また、世界史で学んだ事柄とも結びつけて内容把握をさせたい。

### ③中心となる学習活動

- ・登場人物の立場に立って「四面楚歌」を語り直し、グループで交流する。  
登場人物は、項王・虞・左右(の臣下)・楚人・漢軍(の兵士)の5人とした。

### ④言語活動の工夫

- ・古典Bの言語活動例ウは「古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。」であり、単元目標イを効果的に指導するために、言語活動例ウを具体化した。
- ・語り直しの作業を行う際、苦手意識が強い生徒も積極的に取り組めるよう、4人一組のグループを作り、相談しやすい状況を作った。
- ・同じ立場のグループで交流した後、違う立場の者でグループを組み、交流をすることで、場の情景やそれぞれの登場人物の心情を具体的にイメージできるようにした。

### ⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心 ・ 意欲 ・ 態度	① 漢文の内容を、想像力を働かせて自分なりに捉えようとしている。 ② グループでの交流に意欲的に取組もうとしている。	観察(机間指導) (発言) 点検(ワークシート)	・登場人物についての資料を参考にするよう助言する。
読む 能力	① 本文を読んで、内容を展開に即して的確にとらえている。 ② 本文の内容に即して場の情景や登場人物の心情を的確に捉えている。	観察(机間指導) (発言) 点検(ワークシート)	・ワークシートで現代語訳を確認するように助言する。 ・グループ内で意見交換するように助言する。
知識 ・ 理解	① 訓読の決まりや漢文特有の句形、語句の意味を理解している。 ② 故事成語「四面楚歌」の意味を理解している。	観察(発言) 点検(ワークシート)	・辞書で調べるよう助言する。

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代語訳そのままに近い作品もあったが、本文の内容と項羽の人柄をよくとらえて書かれた作品も見ることができた。</li> <li>・物語全体を語り直すことが難しい場合は、教師側で質問事項を準備して、登場人物がインタビューに答える形式にしても良かったかもしれない。</li> <li>・異なる視点で物語を捉えることにより、本文の情景や登場人物の心情を具体的にイメージできた生徒が多く見られた。</li> <li>・語り直しの発表をするだけにとどまってしまう、登場人物の生き方や考え方について、文章中の表現を根拠にして話し合うことが十分にできず、最後は教師側でまとめる形になってしまった。話し合わせる事柄を絞ることと、時間の確保が必要だと思った。</li> </ul>
アドバイス 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日頃の授業からペアワークやグループ活動を取り入れ、生徒同士が意見交流をしやすい雰囲気作りをしていくとよい。</li> <li>② グループを作る際、リーダーになれる生徒を各班に入れたり人間関係に配慮したりすると、グループ活動がうまく機能したように感じた。日頃からの生徒観察が大切だと思った。</li> </ul>
小中学校との 系統性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① (中学・1年・C読むこと) ウ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。</li> <li>② (中学・2年・伝統的な言語文化) イ 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。</li> </ul>

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○本文の読み方と書き下し文を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の範読を聞いたり、追従読みをしたりして読み方を確認する。【ア】</li> <li>・全文を書き下し文にする。【ア】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文を用いて訓読の決まりや書き下し文の決まりを復習し、理解させる。</li> </ul>	訓読の決まりや、書き下し文の決まりを理解することができる。【知】 ↓ 点検(ワークシート) 観察(発言) (机間指導)	机間指導をした際に個別で指導する。 ↓ 書き下し文がワークシートに記入してあるかを確認する。
2	○現代語訳をし、本文全体の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代語訳をして全体の内容を把握する。【イ】</li> <li>・本文中にある疑問、詠嘆の句形を理解する。【ア】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試を意識し、教科書の脚注だけを参考にして全体の内容を把握させる。</li> <li>・句形に関しては説明を加え、理解させる。</li> </ul>	教科書の脚注を見ながら、全体の内容を把握することができる。【読】 ↓ 点検(ワークシート) 観察(発言) (机間指導)	机間指導をした際に個別で指導する。 ↓ 自分なりの現代語訳がワークシートに記入してあるかを確認する。
3	○内容を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代語訳を確認し、内容を理解する。【イ】</li> <li>・「四面楚歌」の意味を理解する。【イ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の「鴻門之会」から「四面楚歌」の場面に至るまでの経緯を説明し、理解させる。</li> <li>・次時は登場人物の立場で「四面楚歌」を語る作業をすることを伝える。</li> </ul>	「四面楚歌」の意味を理解することができる。 ↓ 点検(ワークシート) 観察(発言) (机間指導)	机間指導をした際に個別で指導する。 ↓ ワークシートを振り返らせることで確認させる。

4	○登場人物の立場で「四面楚歌」を語り直す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに割り当てられた登場人物（項王・虞・左右・楚人・漢軍）の視点で「四面楚歌」の様子を書く。【イ・ウ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容に即して、心情を交えながら話し言葉で書くように伝える。</li> <li>・項羽・虞・劉邦の人物像を記した資料を配布する。</li> </ul>	<p>物語の情景や登場人物の心情をイメージすることができる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>点検(ワークシート) 観察(机間指導)</p>	<p>配布された資料を読んだり、グループ内で意見を交流したりして、イメージをふくらませるよう助言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ワークシートに記入してあるかを確認する。</p>
5 (本時)	○交流を通して、場の情景や登場人物の心情を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のグループで同じ立場から書かれた作品を発表し合い、意見交流する。【ウ】</li> <li>・「項王・虞・左右・楚人・漢軍」の5人グループになって、異なる立場から書かれた作品を発表し合い、意見交流する。【ウ】</li> <li>・各立場の中から指名された者の発表を聞いて、全体で意見交流する。【ウ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するときは聞き手に伝わるように、話すときの姿勢や声の大きさに注意させる。また、聞き手に対しても、聞く姿勢を留意させる。</li> </ul>	<p>各登場人物の置かれた状況や心情を捉えた上で「四面楚歌」という故事成語の意味を理解できる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>点検(ワークシート) 観察(机間指導) (発言)</p>	<p>グループ内で意見交流やワークシートを振り返ることによって、状況や心情を考えるよう助言する。</p>

## 6 第5時の学習指導案

本時の位置	5時間目(全5時間)		
本時の学習目標	<p>ア 登場人物の立場で語り直した「四面楚歌」を発表し、グループで意見交流をしようとする。(関心・意欲・態度)</p> <p>イ 各登場人物の置かれた状況や心情を捉えた上で、「四面楚歌」という故事成語の意味を理解する。(読む能力)</p>		
事前の準備	<p>① 異なる立場のグループを組んでおく。</p> <p>② まとめのワークシートを準備する。</p>		
導入 10分	<p>学習内容</p> <p>□前時までの復習と本時の課題を確認する</p>	<p>学習活動</p> <p>① 前時までの学習内容をワークシートで確認する。</p> <p>② 各自起立して、本文を音読する。</p>	<p>指導上の留意点及び評価</p> <p>・ストーリーを意識しながら音読するよう指導する。</p>

<p>展 開  20 分</p>	<p>□登場人物の立場で語り直した「四面楚歌」を発表し、意見交流をする。</p>	<p>③ 前時のグループで、同じ立場から書かれた作品を発表し合う。ワークシートに感想を記入し、意見交流する。</p> <p>④ 「項王・虞・左右・楚人・漢軍」の5人グループになって、異なる立場から書かれた作品を発表し合う。ワークシートに感想を記入し、意見交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導をしてグループごとの状況を確認する。</li> <li>・ スムーズに移動できるように指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>目標アに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>[規準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の立場で語り直した「四面楚歌」を発表しグループで意見交流をしようとする。</li> </ul> <p>[方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察（発言・グループ活動の様子）</li> <li>・ 点検（ワークシート）</li> </ul> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表を聞いて思ったことをワークシートにメモをするよう助言する。</li> </ul> </div>
<p>ま と め  20 分</p>	<p>□各登場人物の置かれた状況や心情を捉えた上で、「四面楚歌」という故事成語の意味を確認する。</p>	<p>⑤ 各立場の中から指名された者の発表を聞いて、ワークシートに感想を記入する。全体で意見交流する。</p> <p>⑥ 次時の授業内容について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表するときには聞き手に伝わるように、話すときの姿勢や声の大きさに注意させる。また、聞き手に対しても、聞く姿勢を留意させる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>目標イに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>[規準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各登場人物の置かれた状況や心情をとらえた上で、「四面楚歌」という故事成語の意味を理解する。</li> </ul> <p>[方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察（発言・グループ活動の様子）</li> <li>・ 点検（ワークシート）</li> </ul> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内での意見交流やワークシートを振り返ることによって、状況や心情を考えるように助言する。</li> </ul> </div>